

日本小児科学会災害対策委員会報告

第124回日本小児科学会学術集会
小児・周産期医療従事者向け災害医療研修会開催報告

日本小児科学会災害対策委員会オブザーバー¹⁾、同 委員²⁾、同 副委員長³⁾、同 委員長⁴⁾、同 担当理事⁵⁾
伊藤 友弥¹⁾ 石和田稔彦²⁾ 大川 貴司²⁾ 大木 茂²⁾ 緒方 健一²⁾
木村 重美²⁾ 高橋 謙造²⁾ 中村 公俊²⁾ 福地 成²⁾ 古家 信介²⁾
岬 美穂²⁾ 和田 雅樹²⁾ 井田 孔明¹⁾ 中村 安秀¹⁾ 祝原 賢幸³⁾
賀来 典之³⁾ 清水 直樹⁴⁾ 呉 繁夫⁵⁾ 和田 和子⁵⁾

日本小児科学会では毎年4月に開催される学術集会に合わせ、小児周産期医療従事者を対象とした災害医療研修会を開催してきた。

本年度の第124回学術集会は、学術集会自体がオンラインと現地でのハイブリッドの開催となった。それに合わせ、本研修会も全ての講義とグループディスカッションをオンラインで行うこととなった。昨年度からの改善点も含め開催実績の報告を行う。

開催概要

日時：令和3年4月18日 9:00~11:30

方法：オンライン (zoom)

参加者数 34名 (医師 31名, 看護師 1名, 助産師 2名)
講師

ファシリテーター 7名 (伊藤友弥, 祝原賢幸, 大木茂, 賀来典之, 古家信介, 岬美穂, 杉浦 弘)

タスクフォース 10名 (石原唯史, 石和田稔彦, 岡田広, 奥村能城, 高橋謙造, 武 純也, 中村公俊, 福地成, 松永綾子, 和田和子)

事務局 2名

プログラム

9:00~9:15 東日本大震災から10年 現地の小児医療の実際 あおぞら診療所ほっこり仙台 田中総一郎先生

9:15~9:35 [講義] 災害医療概論 CSCATTT

9:35~9:40 休憩

9:40~10:00 グループディスカッション 院内初動 CSCATTTで初期対応を考えてみよう

10:00~10:20 [解説講義] 災害時の院内初動

10:20~10:25 休憩

10:25~10:55 グループディスカッション 院内初動2 病院避難・診療受け入れ準備どうする

10:55~11:10 [解説講義] 災害時の院内初動

11:10~11:30 [講義] 災害時に求められる小児保健活動

プログラム

昨年度と同様、今年度の災害医療研修会もオンラインでの開催となった。研修会を円滑に進行させるため、講義スタッフの編成をファシリテーターとタスクフォースの2名体制にした。その上で、事前打ち合わせを2回と、当日の直前打ち合わせも行った上でオンラインでも円滑な進行ができるように準備を行った。

また、今年は東日本大震災から10年であることも踏まえ、当時の状況を知り、災害対策の必要性についての意識向上を図るため、あおぞら診療所ほっこり仙台の田中総一郎先生から被災体験に基づいたレクチャーをしていただいた。

プログラムの改善

令和2年に開催した研修会の参加者から、ディスカッション時間の拡充が必要であるとの意見があり、今回は2時間半のプログラムに変更した。その結果、ディスカッション時間は30分から50分に増やすことができた。

講義スタッフの増員

グループディスカッションを進行するスタッフの拡充も行った。ファシリテーター1名とタスクフォース1名の最低2名のスタッフを配置することとし、スムーズな進行を図るとともに、スタッフ一人一人の負担の軽減を図った。

課題

全体のプログラム構成

研修会は滞りなく開催することができたが、終了後の課題整理を行ったところ、次のような課題が指摘された。

まず、受講生に災害への備えを行う必要性を訴えるスライドを加えたり、自施設で行えることを議論するなどのまとめの時間を確保したほうがよいと思われた。次回以降、受講生に当事者意識をさらに持っていただくための工夫を行う必要がある。

次に、現状では研修会の到達点がグループ任せになってしまっているため、あらかじめ到達点を共有した方が受講内容の均てん化につながると考えられた。グループディスカッションはzoomのブレイクアウトルーム機能を活用するため、グループ毎の到達点が不明確になっている可能性が指摘された。今後はディスカッションごとの到達点を明確にし、ファシリテーター間での共有を図る必要がある。

そして、研修会の開催形態自体の見直しについての指摘もあった。オンラインで開催が可能であれば、オンラインのメリットを最大化することを考えるべきであり、オンライン上の事前学習コンテンツを用意し、当日はディスカッションを中心に行うほうが、受講生の学習効果が得られると考えられた。

次回以降、これらの改善点を取り入れた研修会にしていくことを検討する。

事務的な改善点

研修会を開催するにあたり、事務的な課題も指摘された。今回は申し込みから受講決定までの期間に1か月ほどの待ち時間が生じた。申込者に対して受講が可能となることの連絡を早めにする事で、キャンセルを抑えることができたかもしれない。

アンケート結果

昨年と同様の質問項目を用いて、受講後のアンケート調査を行い、34名の受講生から回答を得た。アンケート結果では特に以下の回答項目が特徴であると思われた。

- ・職種では「20年以上の医師」が50%を占め、前回より多かった(前回38%)
- ・災害研修や院内災害対策へ関わっている受講者は32%であり、前回よりも少なかった(前回41%)
- ・災害支援に関わったことのある受講者は32%であり、前回より多かった(前回19%)
- ・リエゾン研修の受講者は18%であり、前回より多かった(前回6%)
- ・研修時間が短いと感じる受講生は21%に減った

(前回34%)

- ・CSCATTTの講義で「とても理解できた」と回答した受講生が44%に増えた(前回28%)

- ・グループディスカッションは「とても理解できた」と回答した受講生が41%に増えた(前回22%)

- ・この研修会を「強く薦める」と回答した受講生が65%に増えた。(前回34%)

- ・オンラインでも「強く薦める」と回答した受講生が59%に増えた。(前回38%)

今年度の研修会はプログラム改善を行い、グループディスカッションの時間を前年度のプログラムよりも多く確保した。その結果として、受講生からのプラス評価が増えた可能性がある。

アンケートの自由記載欄では、被災経験や災害支援の経験談を聞きたいという意見があった。また、小児周産期の災害対策について地域ごとの研修会や、より次の段階(上級者向け)の研修会を希望する声もあった。それらの研修会を日本小児科学会が担うべきなのかは議論が必要であり、DMAT研修や国などによる災害時小児周産期リエゾン研修が該当する可能性もあり、その情報提供はされてもよいと思われた。研修会で取り上げる内容への提案もあり、内閣府が提示している授乳アセスメントシートの紹介もしたら良い、とのコメントもいただいた。アンケート結果の詳細については、添付の「アンケート回答」を参照されたい。

今後の研修会について

連続2回の研修会をオンラインで行うことができた。1回目の研修会の反省を生かし、2回目(今年度)の研修会では参加者の満足度が上がったと思われた。引き続き会員の根強いニーズはあるものと思われるため、研修会の開催は必要であると思われる。

一方で、オンラインでの開催が可能であるならば、学術集会に合わせた開催のみではなく、各地域で開催することも検討すべきであると思われる。今後の研修会のあり方について、当委員会内で議論を進める必要がある。

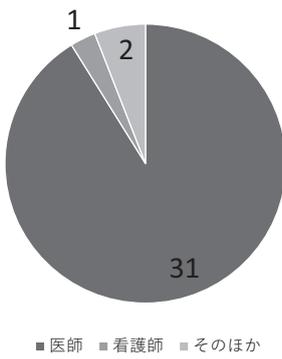


図 1a 受講生の職種

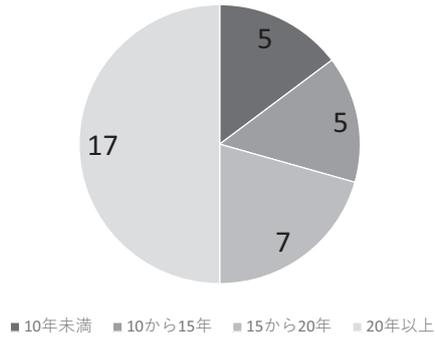


図 1b 受講生の職種経験年数

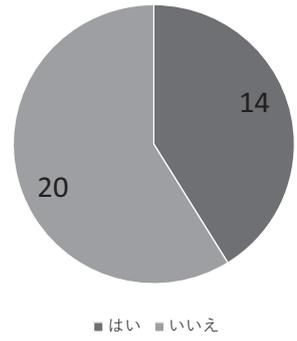


図 1c 受講生の過去の災害研修受講歴の有無

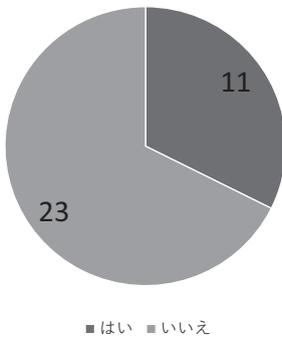


図 1d 受講生の普段からの院内災害対策への関わり

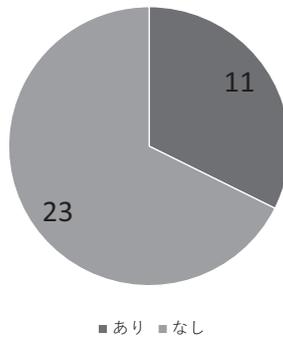


図 1e 受講生の実際の災害支援経験の有無

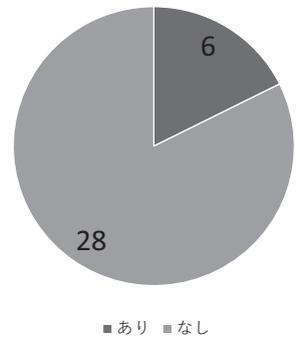


図 1f 受講生の災害時小児周産期リエゾン研修の過去の受講歴

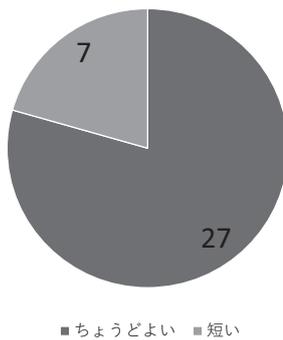


図 2a 本研修会の研修時間について

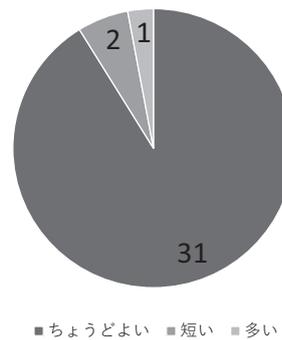
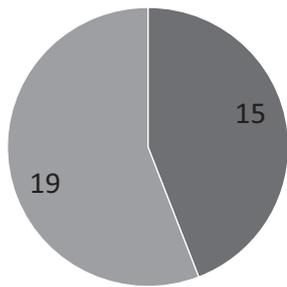
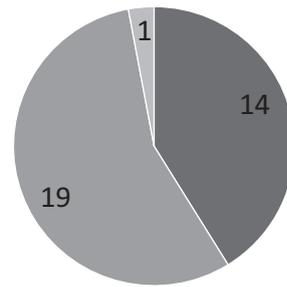


図 2b 本研修会の全体の研修内容について



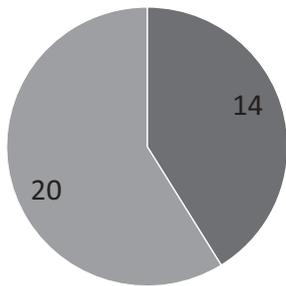
■ とても理解できた ■ 理解できた

図 3a 講義 災害医療概論 CSCATTT の理解度



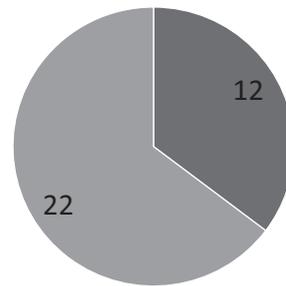
■ とても理解できた ■ 理解できた ■ あまり理解できなかった

図 3b 解説講義 災害時の院内初動の理解度



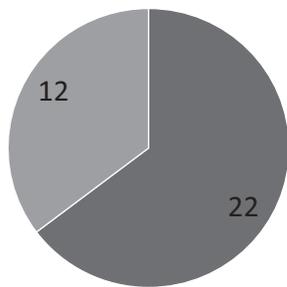
■ とても理解できた ■ 理解できた

図 3c グループディスカッションの理解度



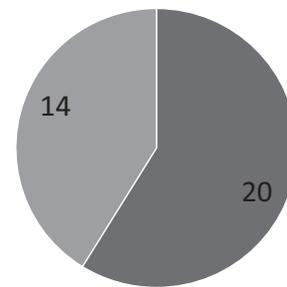
■ とても理解できた ■ 理解できた

図 3d 講義 3 災害時の小児保健活動の理解度



■ 強く薦める ■ 薦める

図 4a 同様の内容であれば、他の小児周産期医療従事者に薦めるかどうか



■ 強く薦める ■ 薦める

図 4b オンライン開催でも、他の小児周産期医療従事者に薦めるかどうか

表1 オンラインで受講したメリット

-
- ・グループ分けが瞬時に可能で画面上に参加者が常に表示されておりみんなで討議している雰囲気が感じやすい様な気がしました。
 - ・小さい子供がいるので、オンラインだから参加できたと思います。
 - ・コロナ禍で移動せずに受講できありがたかった
 - ・会場まで移動しなくてもよいので、通常業務への支障がなかった。
 - ・どこからでも参加できる
 - ・ファシリテーターの方々がとても運営に慣れていらっやあって、その場にいるかのようにディスカッションできてとても有意義な時間でした。また、オンラインなので書記内容が画面共有されていて、とてもやりやすかったです
 - ・現地に行く必要がないため、参加しやすい。
 - ・自宅から参加できた
 - ・コロナ感染の時期なので、感染予防をしながら、研修やグループワークができた。
 - ・全国の先生方の貴重な講義を聞くことができ大変勉強になりました。ありがとうございました。
 - ・自分の病院で受講できるため、参加しやすい。
 - ・緊張をあまりせずに拝聴できたこと。
 - ・往復時間の短縮、気軽に参加できる
 - ・現地開催に何度か受講しようと思っていたが、参加できなかったのが、オンラインのためスムーズに参加できた。
 - ・移動時間を取られず、場所の制限も受けないので、自分の生活圏内からすぐに繋がる事ができる。地方の人間や、自由に動けない家族・仕事環境がある人にとっては参加のハードルは下がる。
 - ・画面が見やすく、学習しやすかった
 - ・個別に発言を促していただけるので、皆様のお考えが良くわかりました
 - ・移動せず自宅で受講できる点は大きなメリットであると思います。
 - ・いろいろな方の意見をディスカッションとして確認できたのは、より深い理解につながった。
 - ・参加が容易だったのと、スライドが見やすかった。
 - ・遠隔地からの参加なので、家族への負担が少なくすみました。
 - ・感染対策を気にすることなく受講できたこと。
 - ・自分の好きなスタイルで参加できること。会場に行くまでの時間が省けること。
 - ・オンラインのため参加しやすかったです。
 - ・研修先に行かなくても自宅でも受講できる。事前に資料に目を通せる。
 - ・自宅から参加できてよかったです。画面オフでも参加できて感謝です。
 - ・手軽に参加できる。各地の人と関わる事ができる
 - ・移動の時間が不要で、便利である。今後も続けて欲しい。
-

表2 オンラインで受講したデメリット

-
- ・特にありません。
 - ・途中、パソコンがフリーズしかけて一時グループディスカッションから離れざるを得なかった。
 - ・ディスカッションは対面の方が盛り上がると思うが、現状では、ディスカッションできることがありがたいです。
 - ・感覚が共有しにくい。
 - ・ちょっとした休憩時間に個別に相談できるようなオフラインの状況とは違う、という程度でした。
 - ・途中ネットが途切れることがあった。
 - ・全体の雰囲気が変わりにくい。
 - ・直接対話でないため、自由な討論ができない（仕方ないかもしれませんが）。
 - ・休憩時間や前後などにほかの受講者や講師の先生方と情報共有やお話ができない。
 - ・やはり、ディスカッションの時の空気を感じる事ができないので、身体に浸透してくる度合いが薄くなるように感じる。
 - ・臨場感は少ないかと思いますが、そこまでデメリットを感じませんでした。
 - ・間ができてしまったが、ファシリテーターの先生がうまく回していただいた。
 - ・基本的にはあまりないです。特にシステムの不具合もありませんでした。
 - ・特に感じなかったです。ブレイクアウトルームが十分に活用されていたと思います。
 - ・特にありません。以前、別の勉強会ですが、Zoomでのグループワークで過去に取捨がつかず困ったことがありましたが、今回はファシリテーターの方が配慮して下さったので問題ありませんでした。
 - ・グループワークで発言するタイミングが計りにくかった。
 - ・グループから全体に自動的に戻るので、グループディスカッションの終わりがあわただしい感じになること。しかし大きな問題ではないと思います。
 - ・一体感が乏しいこと、マイクの音声によっては聞きづらいことがあること。
 - ・最初の講義の音が聞こえづかった。
 - ・特にありませんが、ちょっとした雑談ができないのがさみしいです。
 - ・グループディスカッションの際、意見を言うタイミングが重なってしまうなど。
 - ・ファシリテーションの仕方によっては、発言をもとめられるときの緊張感があります。今回は大丈夫でした。
 - ・受講後に個別にフリーで話ができる環境がないこと。
 - ・時間が足りない—1日計画でも良いかも。
 - ・ディスカッションでの話しにくさがある。
-

表3 今後の改善点について

-
- ・小児科学会の中では難しいかもしれませんが、グループディスカッションを多職種で行う試みも何かの機会にあればよいかもしれないと思いました。
 - ・研修会の時間をもう少し長くしていただけたら幸いです。
 - ・時間がもう少し長くても良いと感じました。ありがとうございました。
 - ・コロナ禍で、仕方がないのかも知れませんが、アクリル板などを使用して、集まってやった方が良いと思います。特に、救急に関する事なので、身体で覚える必要があるように思います。
 - ・グループ討議の議論が抽象的すぎて、問題点・気づきを促すには良かったのですが、時間的には熟考・ディスカッションするには無理な抽象さであったかと思っています。
 - ・大変かとは思いますが、同じような講習会がこれからも、多くの分野で開催されることを願います。
 - ・ご紹介いただいた資料のURLなども記載していただけたらありがたいです。
 - ・レクチャーとグループワークの時間配分をご再考願えたらと思います。
 - ・最初からディスカッションするテーマを決めてグループワークにする方が時間が省けます。
 - ・オンラインであればディスカッションの時間は短くてもいいかもしれない。
-